

『月夜のみみずく』

ヨーレン詩 / くどうなおこ訳 / ショーエンヘール絵
偕成社 (1989年)



冬の夜更け、みんなが寝静まった頃にお父さんと私は出かけます。月夜の森で、みみずくに会うために、手がかじかんで凍えて

も、森の中が暗くてちょっぴり怖くても、黙って歩きます。みみずくに会うためには、しずかにしてなきゃ。

雪を踏みしめながら歩く時のわくわくする気持ち、みみずくとじっと見つめあった時の緊張感が、読む者にも伝わってきます。みみずくに出会えた喜びで、心がふっとあたたかくなる、こんな体験を、子どもたちにさせてあげられたら！

みみずくを探すのはちょっと大変ですが、西緑地のまわりでも今の時期、フクロウの仲間のアオバズクに出会うことができます。

先日夜も遅くなってから、息子と二人で田んぼのそばを歩いてみました。日中はな

んということもない丘が、黒々とした影を作っていて、カエルが盛んに鳴いています。その中に確かに、ホッホー、ホッホーという声。アオバズクです！しばらく鳴き声を聞いていた息子は、手を丸めてその中に息を吹き込み、まったく同じような「ホッホー」という音を出しました。・・・「ホッホー」・・・むこうでもそれに呼応しているようにもみえます。と、その時、「ホー、ホー」と違う声が交りました。それまで黙っていたメスが、あわてて割りこんで鳴き始めたのです。きっと、変なヤツに自分の大切なオスをとられては大変！と思ったのでしょう。「こっちはお呼びじゃなかったね」息子もニヤリとしました。それからの「ホッホー」の、なんともやさしくあたたかい声。

二羽はこれから家庭を築き、子育てをすることでしょう。夏の終わりに南のほうに飛んでいく日まで、しばらくこの近辺で過ごします。

大自然の小さな小さな一画で、素敵なドラマが成立した瞬間に立ち会えて、私の胸にもぼっと灯りがともりました。

この画像は偕成社の了解を得て使用しています。